



## JAS認定新工場でグローバルな競争力を強化

株式会社櫻井 奈良県吉野郡吉野町

株式会社櫻井は、吉野林業地帯の中心地である吉野郡川上村出身の現会長櫻井昭三氏が集成材メーカーとして創業。以後、一貫して集成材製造の近代化・高度化に取組み、平成23年4月には、工業団地「テクノパークなら」（五條市）内で、約1万2千坪の敷地にJAS（日本農林規格）認定工場を建設。

生産能力で、従来の月産5千m<sup>3</sup>に新たに5千m<sup>3</sup>を加え、グローバルな価格競争力を付けるとともに、全国初の5樹種に対応したJAS認定を取得し、新工場の在庫能力とデリバリー体制とあいまって、幅広いニーズへの即応体制が整った。

### 会社概要



会社名：株式会社櫻井  
本社：奈良県吉野郡吉野町丹治15-1  
（五條新工場）五條市住川町1288  
電話：0746-32-0563  
FAX：0746-32-8502  
創業：昭和48年（1973年）9月  
設立：平成12年（2000年）7月  
代表者：代表取締役会長 櫻井 昭三  
代表取締役社長 櫻井 信孝  
専務取締役 櫻井 憲二  
資本金：4,500万円 従業員：80名  
事業：構造用化粧貼集成材／桧、杉他  
既製品・特注品各種／EW・E  
R芯材、羽目板・フローリング  
URL：<http://www2.gol.com/users/marushou11/>

### 集成材専門メーカーとして130坪の工場から創業

株式会社櫻井は、現会長が10代のころから地元の林業家に勤務する中、山から出材される木材の買い付けや製材工程の管理、さらには販路開拓など、林業に関する様々な業務を習得。そして昭和48年、満を持して独立創業したものである。

しかし、独立当初は、わずか130坪の集成材工場、そして人員は会長夫婦と義弟（現吉野工場長）の3人と「裸一貫からの出発であり、4、5年は働き詰めであった」（櫻井昭三会長）という。

### 化粧貼り集成材柱シェアトップ。構造材参入で成長

創業当時、吉野材は銘木として全国に名を馳せ、奈良県林業・製材業の最盛期でもあった。

そのため常に品薄の状態、家内工業的な同社では、なかなか吉野産の木材を仕入れられなかったこともあり、構造用化粧貼り集成材分野に参入することとなった。



吉野材の木目が活かされた集成材。無垢材の約1.5倍の強度がある。



これは、平板を貼り合わせた芯材の外側に、吉野材の薄板を貼り合わせた在来軸組み工法用の柱材等で、美しい木目や色・艶を持つ吉野産銘木の特性を生かした集成材である。

また当時は、日本が高度成長する中、性能が安定的で加工のしやすい集成材が急成長を見せ始めた時期であり、それと共に同社も発展してきた。

しかしながら、近年は、住宅の洋風化の波に押



吉野町に所在する本社・工場群（上）と五條新工場（下）

され、化粧貼り集成材柱の需要も減少してきた。

そのため、同社は、今や化粧貼り柱では国内トップシェアを誇るようになったものの、梁や壁内に用いる耐力部材としての構造用集成材のウェイトを徐々に高めてきている。

### 日本の住宅の方向性を見極めた多量・安定供給体制

同社の発展の要因は、日本の住宅建築の方向性を見据えた事業展開にあり。つまり、木材安定供給のための輸入の増加、設計図に基づき工場であらかじめ部材をカットするプレカット工法の成長、また、乾燥木材を用いた安定的な性能要求などが強まる流れを早い時期から見越してきた。

同社では、ラミナー（集成材を構成する薄板）は主としてスウェーデンなどから直輸入しているが、輸入材を芯材に用いることで多量・安定的な供給が可能で、また、乾燥材として入ってくるため強度や材質も安定しており、まさに集成材生産は時代の流れに沿ったものとなった。

そして、販路としても、顧客ニーズを捉えた巧みなPRを行うハウスメーカー向けに注力した。この、ハウスメーカーとの取引拡大は、同社の経営管理能力を磨くことにもつながっている。多量・安定供給が求められ、短納期受注で納期厳守は当たり前という取引に加え、品質管理やコスト低減要請も厳しく従業員の技術力は高まった。

さらに、コスト管理や大型設備投資による効率化も欠かすことができないことから、同社では、財務面でも、月次試算表を厳しく精査し管理を徹底している。これが、さらなる積極的な設備投資に打って出る決断にも結びついており、相次ぐ工場増設のほか、いち早く8メートルの回転プレス機を導入し、長尺ものの加工を可能としたことなどで、生産の効率化を促進した。

### 新工場建設でグローバル競争力

平成12年の法人化のころから構造用集成材に本格進出。当初は、一般的な住宅の耐力部材に使

われる小断面、中断面を中心にしてきた。

しかし、構造用集成材分野では、大規模メーカーも交えて国内の競争は厳しく、さらに、製品輸入も急拡大しており、グローバル化に目を向けた事業展開が必要となってきた。

そのため同社では、高効率の新鋭設備導入や工場増設を進めてきたが、今年4月、工業団地「テクノパークなら」（五條市）において、約1万2千坪の敷地に新工場と倉庫を建設。今後は、中断面や大断面の取扱量を増やす方針である。



在庫能力強化を目指し吉野と五條で5千坪の倉庫を確保



8m 回転プレス2台を直列に配置し加工能力が大幅向上

### 5樹種の幅広いJAS認定と奈良県産材回帰

専務が指揮する新工場では、ホワイトウッド、レッドウッド、米松、杉、檜の5樹種に対応したJAS認定を取得。異等級構成集成材の生産が可能となり、ニーズ対応の幅も広がった。

特に、杉については吉野材にこだわった生産を行い「E85」という高強度の認定を受けた。さらに、国産材対応を強化するため、中温人工乾燥機も導入予定で、天然乾燥との併用で色合いや艶を生かすことにもこだわりをみせ、「吉野に住むことにこだわり、地元との連携を強化したい」（櫻井信孝社長）方針である。

また、木材利用促進法が平成22年10月に施行され、低層公共建築物の原則木造化が打ち出された。公共建築にはJAS規格が求められるが、認定を受けている工場は依然として少なく、今後、同社への期待はますます高まるものとみられる。

（山城 満、岡本 忠）